

## 平成30年度訪問看護ステーション連絡協議会中国・四国ブロック会のご報告

平成30年度の訪問看護ステーション連絡協議会中国・四国ブロック会は、徳島が担当でした。会員の皆様にご報告いたします。10月20日に開催しました。事務局が移転して初めての大きな行事でしたので、不安でもありましたが、これまでに出席された経験もある看護職理事の方が中心になってご準備くださいました。

内容は、徳島県訪問看護支援センターと本会の共催による平成30年度訪問看護普及フォーラムと、夕方の交流会でした。

訪問看護普及フォーラムは、徳島市のふれあい健康館で開催し、22名の方にご参加いただきました。今年のテーマは、「看取りについて考えてみよう」で、豊田健二先生による基調講演、訪問看護ステーション看護師、ソーシャルワーカー、および看取りを体験されたご家族もパネリストに迎えた、パネルディスカッションが行われました。最近では、ステーションの皆様は、「看取りのケア」を体験されていることも多いかもしれませんが、新たな気持ちで日ごろの実践を振り返る機会になったのではないかと思います。

交流会は、場所を変えて阿波観光ホテルで31名の参加を得て開催しました。徳島県内からは10名ご参加くださいました。各県の取り組みや現状を自己紹介の形式でご発表いただきました。テーブルに分かれて、意見交換などが行われました。ステーションの新人ナースの交流会のご案内など、情報共有も行なわれました。

会長として初めて開催したブロック会議でしたが、反省として、折角中国・四国ブロック会議という貴重な機会でもあり、課題設定をして、時間をかけて協議した方がよかったのではないかと、思った次第です。中国・四国は、高齢化の進んだ地域であり、高齢化するサービスを利用される方への対応の特性、人材不足が深刻化する看護職確保の問題等、課題は山積しています。特に、今年は、西日本豪雨で、被災体験をされた方が多く、今後の備えた災害発生時の対応もお教えいただければよかったと思いました。そうすれば、会員の皆様に有用な情報提供ができたのではないかと考えております。

この体験を、今後に生かすことをお約束して、ブロック会のご報告とさせていただきます。

徳島県訪問看護ステーション連絡協議会会長 多田敏子